

ホワイトニングでリバーズエイジング

文 飯塚 宏明

text by Hiroaki Iizuka

飯塚 宏明
院長

ホワイトニングって歯を削るの？ ホワイトニングって歯に悪くないの？ ホワイトニングって痛いの？ ホワイトニングって時間かかるの？

リバーズエイジングに関心が高まり、お肌に関してはピーリングだとか、レーザー、ヒアルロン酸、ボトックス、金の糸など、いろいろな若さを保つ方法が出てきています。歯のリバーズエイジング、ホワイトニングに関しても関心が高まってきています。若いうちはピンク色の口紅が似合うのに、年齢を重ねるとだんだん濃い口紅になっていくのはなぜでしょう？ 年齢を重ねると歯の色がだんだん濃く暗くなるので、淡い色では負けてしまつて綺麗に見えなくなるからです。日本人の歯は欧米人に比べてエナメル質が薄く、中の象牙質の色が黄色いのです。それゆえ象牙質の色がエナメル質を透かして、淡く黄色く見えます。そして年齢とともにエナメル質自身も黄色くなり、さらに表面にいろいろな有機物や、ステインが付いてなおくすんで暗く見えてしまいます。

今までのホワイトニングは色の彩度、

鮮やかさを上げて白く見せるホワイトニングでした。これは高濃度の過酸化水素（オキシドールのすごく濃い物）を使いお薬の温度を上げて、エナメル質表面を細かく溶かしてザラザラにして、すりガラスのようにして白く見せるものが主流です。当然熱いし、痛いし、しみるし、エナメル質の薄い日本人には快適なものではありませんでした。最初に鎮痛剤を飲んでから始める術式もあります。

そこで、飯塚歯科は全く新しい「Sai ホワイトニングシステム」を開発しました。色の明度、明るさを上げて白く見せる、日本人のためのホワイトニングシステムです。これは触媒を使うことにより、オキシドールくらいの、非常に低濃度の過酸化水素で、歯の表面に付いている色素を分解して明るさを上げていく方法です。なぜこれで白くなるのか？ 色は実は分子なのです。ニンジンの赤さの元であるβカロチンは、分子量537の長い鎖の分子です。この長い鎖を短く切っていくことによって明るくなっていきました。βカロチンは赤いが、水や空気は色がない。

なぜでしょう？

分子量が小さいので色がないのです。歯の表面の色を組成している分子の鎖を断ち切っていくことにより、その人の元の歯の明るさに戻してあげる。これが新しいホワイトニングです。濃度も温度も必要ないので歯に優しく、エナメル質を傷つけない。しみないし痛くない。終わったあと歯がツルツルしている。そして明るい笑顔が手に入ります。

歯に優しい「Sai ホワイトニングシステム」でリバーズエイジングしませんか??

Profile

1959年 神奈川県小田原市の米屋の長男に生まれる
1985年 日本歯科大学歯学部卒業
1988年 バイクで通勤中トラックと衝突し第1頸椎及び右手首粉砕骨折、絶対安静6カ月の入院生活を送る～ 医療従事者でありながらベッドの上で何もできない自分に出会い、これがきっかけで身体全体を考えるようになる～
1990年 千代田区神田神保町に「飯塚歯科」開設
趣味：ダイビングもうじき800本、サーフィン60歳でサーフィン始めて毎週通う。
音楽：ボサノバ-セルジオメンデス&ブラジル66、JAZZ-Idea6、J-POP-中森明菜



飯塚歯科ホームページ
<https://aidental-iizuka.com>

